

広島別院だより

被爆七十周年非核非戦法会

Vol.10
夏号

真宗大谷派（東本願寺）
広島別院教化委員会発行

教如上人四百回忌法要を厳修

八月六日（木）、広島別院で、被爆七十周年非核非戦法会が厳修されました。

里雄康意宗務総長御臨席のもと、一三八人の参詣がありました。

「正義の名のもとに人間は愚かな所業をしてしまふ。仏法にもとづいて確かめる必要がある。真に豊かな国土にしっかりと根を下ろし平穩に生活できる世界を願う」と総長は挨拶されました。

法要後は、「原爆を語る」と題し、升岡博氏、諏訪義円氏、長坂公一氏にお話をいただきました。戦争の悲惨さ、人間の侵した罪の深さを痛感する話に、参詣の方々は熱心に耳を傾けました。



升岡 博 氏



里雄 康意 宗務総長

四月十八日（土）、広島別院の創立者である教如上人の四百回忌法要が勤められました。

木曾輪番導師のもと、僧侶二十名が出仕した法要に、約七十人名のご門徒が参詣しました。

広島別院と関わりの深い慈敬寺（滋賀県高島市鴨）からご夫妻で参勤された堅田理（かただ・おさむ）住職は、「広島別院との古くからの縁の証しが、寺紋を共有することで、より末永いものとなったと慶んでおります」と挨拶されました。



堅田 理 師



教如上人御影

記念講演は、青木馨先生（同朋大学非常勤講師）が『教如上人と西国』というテーマで講演されました。

青木師は「教如上人は縁のある者を広島など各地に配置することで地域の教化拠点を作っていた。それが戦後の東本願寺創立につながっていた」と、本願寺の東西分派や広島との教如上人の関わりなど、ユーモアを交えながら話されました。



青木 馨 師

おみがきを行いました!!

四月九日（木）、広島別院でおみがきが行われました。

教如上人四百回忌法要をお迎えするにあたり、十八名の方にご参加をいただきました。お蔭様でピカピカの仏具で法要を迎えることができました。

誠にありがとうございました。



お寺のハテナ？

【彼岸（ひがん）】



彼岸会法要は春分・秋分を中日とし、前後各3日を合わせた7日間に行われる日本独特の仏事のことです。

彼岸とは、煩惱や迷いに満ちたこの世、私たちの暮らしている娑婆世界をこちら側の岸「此岸」(此の岸、しがん) と言うのに対し、向う側の岸「彼岸」(彼の岸) は西方浄土、つまり悟りの世界を表します。

極楽浄土は西方にあると考えられています。春分と秋分は、太陽が真東から昇り、真西に沈むので、西方に沈む太陽を礼拝し、かなたの極楽浄土に思いをはせたのが彼岸の始まりです。

ある先生は「彼岸は仏法聴聞の間だ」と言われました。亡くなられた方に思いをはせる中で、仏さまの教えを聞かせていただきましょう。

お寺の活動いろいろ

『Fブロック同朋大会』

Fブロック同朋大会が、六月十三日に北広島町の妙蓮寺で二百人が参加して開かれました。美作組本琳寺・藤井晃住職が「智慧と慈悲―念仏の教えに生きる―」と題して講話され、教行信証や歎異抄、それに和讃等を手がかりに親鸞聖人の教えをたずねていきました。



<<秋彼岸会>>

日時 2015年9月24日(木)
14:00～法要始め
場所 広島別院明信院
講師 専光寺 安本 浩樹 師

道場樹 編集室より

「へい・ラーメン一丁!」

再建前の別院は窓の建付けが悪く、法要中もお隣のラーメン屋から威勢の良い声が聞こえてきた。

昨年六月の落成からはや一年三ヶ月。今はその声も聞こえなくなりました。

目まぐるしく続く法要や行事に多くの参詣があり、地域の教化拠点として賑わいを増しているが、その活気を見るにつけ、再建前の小さな別院を近頃よく思い出す。

再建前の法要にはお参りが少なく、参詣者よりも出仕の僧侶の方が多かったことなど・・・。

しかし、いかに僅かであっても、長年お参りをしてきたのであり、また別院を支えてきたのであり、また別院も聞法者を育ててきたのである。

昭和二十年八月六日以来、焼け野原から再出発した別院も七十年目の夏を迎えた。過ぎ去った聞法者の静かな足音が、真新しくなった本堂にも聞こえてくるようである。

(H・N)

真宗大谷派(東本願寺)広島別院明信院

〒730-0044 広島市中区宝町 4-16

Tel 082-241-5342(電話・FAX 共通)

【HPアドレス】 <http://hiroshimabetsuin.com/>
(アドレスが新しくなりました。)